

インドネシア活動報告①

2017/03/13

【基礎情報】

山口麗子

出身: 鹿児島県

所属: 株式会社マジオネット 入社 3 年目

JICA 青年海外協力隊

西ロンボク県環境局

活動期間: 2 年間(2018 年 10 月まで)

職種: 環境教育

(JICA 青年海外協力隊には看護師や日本語教育など様々な職種があります)

配属先である環境局からの要望:

グリーンスクールプロジェクトの一環として県内の小中高生を対象に 3R(リデュース、リユース、リサイクル)等、環境教育を行うこと。地域住民に対してコンポスト講習をすること。



【活動について】

出国後～1 か月 語学学校に通い、インドネシア語の習得

12 月～1 月 配属先の人々との関係づくり、任地の現状把握

2 月～ 学校巡回開始、ごみ銀行の調査等

今後は学校巡回を続けつつ、問題を抱えている場所に赴き、できることを住民と共に考えていく。

◎任地の現状

島内に焼却施設は1つもなく、ごみは分別されない状態で家庭から中間処理場に集められ、そのまま最終処理場へ運ばれる。ポイ捨てされるごみが非常に多い。家の前でごみを燃やす家庭も多い。



至る所でポイ捨てされているごみ



川のそばに不法投棄されたごみ



TPS(中間処理場)



TPA(最終処分場)

◎学校巡回

ポイ捨てをすることで川や海が汚れ、生態系を壊してしまうこと、ごみは分別すれば様々な利用の仕方があることを授業で話し、子どもたちに意識してもらう。



多いときは 100 人以上の生徒の前で



新聞紙再利用の例として兜作り

◎ごみ銀行(Bank sampah)の調査

インドネシアには各家庭で分別した資源ごみを「ごみ銀行」が買い取り、そのごみからリサイクル商品を作って売るシステムがある。しかし、機能している場所が少ないと聞いたので、その原因は何か調査し、今後の関わり方を探る。



島内で最も成功しているごみ銀行



現在活動休止中のごみ銀行